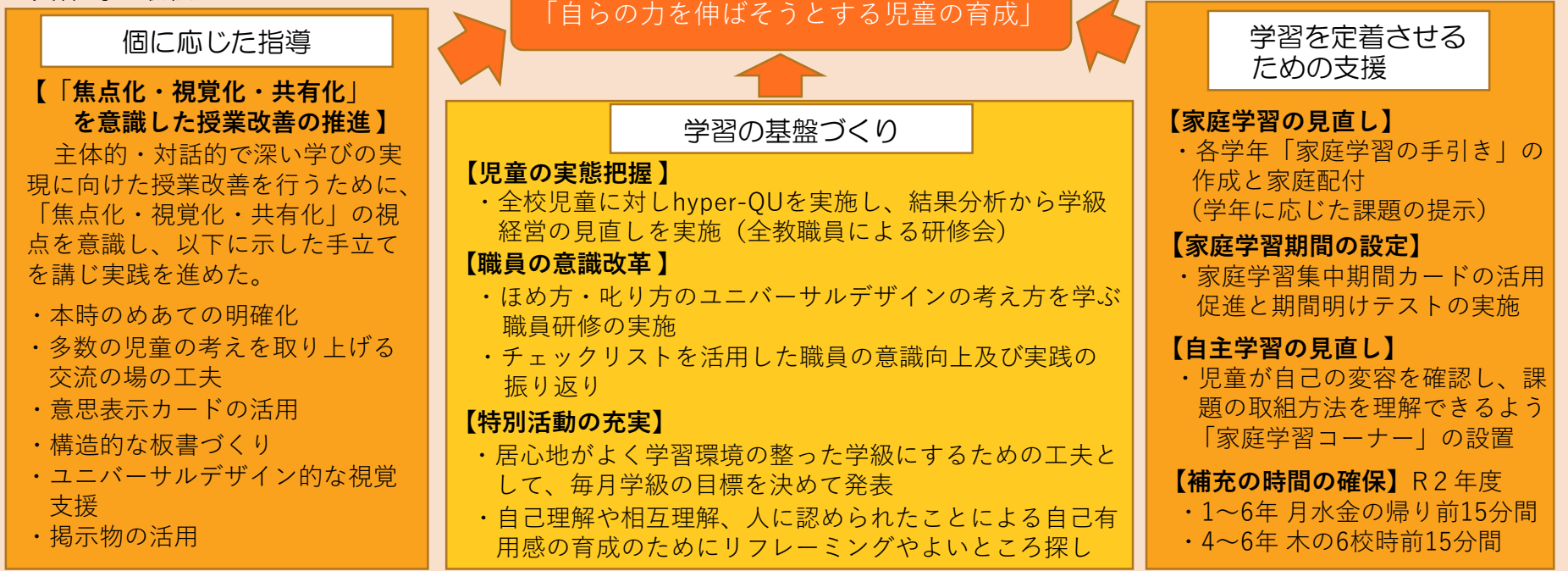


# E 小学校の取組

<p>学校の特徴</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童は授業の中で活発に活動し、多くの児童は学びに向かう意欲がある。一方、学習課題に対して既習事項を結びつけて思考することが苦手な児童や「できるようにになりたい、よりよくなりしたい」という意識が低い児童がいる。</li> <li>・授業改善だけでは学力に結びつきにくい状況があり、学習環境、児童の特性、家庭環境等にも要因があるのではないかと考えるが、実態把握ができていない部分がある。</li> <li>・家庭学習への取組や生活リズムの向上など、各家庭で意識の差がある。</li> </ul>
<p>児童及び学校の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が主体的に学習に取り組み、「分かる」「できる」につながる授業改善の必要がある。</li> <li>・学級経営の充実や児童の自己肯定感の向上を目指し、学習基盤を充実させる必要がある。また、児童の実態を把握し活用できるようにするためにも教員の資質向上研修を行う必要がある。</li> <li>・家庭学習や基本的生活習慣について今まで以上に家庭に働きかける必要がある。</li> </ul>
<p>学力向上に向けた取組</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">個に応じた指導</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">学習の基盤づくり</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">学習を定着させるための支援</div> </div>

## <具体的な取組>



### 成果

○ hyper-QUの結果分析を基に児童理解を深めたことで、他者の意見等を受容する雰囲気や学習集団の育成につながった。また、学習指導において「焦点化・視覚化・共有化」をキーワードとした手立てを模索し、実践することで、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業スタイルを共有し、授業改善につなげることができた。

### 課題

● 児童理解を基盤とした指導改善を行ってきたが、更なる児童の主体的な学びの実現に向け、今後も指導体制や児童の実態に合った授業改善の充実を図っていく必要がある。

# 学習の基盤づくりから個に応じた指導の充実へ

## 個に応じた指導

「焦点化・視覚化・共有化」を意識した授業改善

学習過程に応じた、「焦点化、視覚化、共有化」の具体的な支援を洗い出し、授業実践に生かしていった。実践例を職員で共有することで、効果的な支援の在り方を確認し、実践することにつながった。

### ○個々の学びを深めるための工夫 焦 共

児童の主体的な学びや思考の方向付けをするために、本時のめあてを明確に示すようにした。また、児童が多角的・多面的な考えを知り、考えを深め合えるようにするために、交流の場面では、ペアやグループでの児童同士の交流だけでなく、授業者がファシリテーターとなって多数の児童の考えを取り上げる授業形態も重視した。その際、意思表示カードを活用して、個々の考えをつなぐ授業も行った。



### ○「分かった・できた」につなげる工夫 視 共

本時で学ぶことや考えることは何か、また、分かったことは何かなど、授業の流れが分かる構造的な板書づくりを意識した。また、ユニバーサルデザイン的な支援として、場面絵や半具体物、ICTなどを活用し、視覚的な理解を促した。さらに、提示物等を活用し、情報を必要に応じて得られるような工夫をした。



## 学習の基盤づくり

### ○ hyper-QUの分析・学級経営方針の見直し

結果分析について校内研修で取り上げ、各担任が学級経営方針を見直した。校内研修では、専門の先生を招き、分析の仕方を共有した。

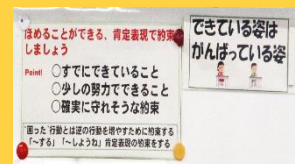
(1学期) 結果分析  
集団及び児童個々の課題に対する  
手立ての明確化・実践

(2学期) 実践・振り返り・修正

(3学期) 実践・次年度への課題確認



【研修風景】



【職員室の掲示物】  
職員全員が肯定的な意識で児童に接している

### ○ 特別活動の充実

居心地がよく学習環境の整った学級にするために、毎月学級会等で学級の課題を話し合い、目標を設定している。それを校内掲示する他、前月の振り返りと今月の目標を校内放送で発表した。また、自己理解や相互理解、人に認められたことによる自己有用感の育成のために、学級活動で「リフレーミング」や「よいところ探し」などを行った。



【毎月の目標の掲示】

## チェックリストを活用した職員の意識改革

授業チェックリスト	
1	児童理解や関係性の確立を目的とした学習活動のデザイン（学習課題）が明確に示されている。
2	児童（教材）の中心となる学習活動の展開が明確に示されている。
3	導入では、児童の関心・意欲を喚起するよう学習活動の工夫をしている。
4	児童の学習活動の振り返りや評価が、授業活動の「学びの過程」の中で適切に行われている。
5	「めあて」が児童の学習活動の展開と一致している。
6	児童理解や関係性の確立を目的とした学習活動の展開が明確に示されている。
7	児童理解や関係性の確立を目的とした学習活動の展開が明確に示されている。
8	児童理解や関係性の確立を目的とした学習活動の展開が明確に示されている。
9	児童理解や関係性の確立を目的とした学習活動の展開が明確に示されている。

【チェックリスト】

児童の実態から、**目指す児童像を明確にし、全職員で共通理解した上で実践に取り組んだ。**

指導チェックリスト（個に応じた指導編、学習の基盤編、学習の定着編）、校内研修チェックリストを活用し、職員の意識向上及び実践の振り返りの充実を図った。

<実践を行った教員の声>  
hyper-QUの分析によって児童一人一人の情報や支援の手立てを頭に入れて学級経営ができました。

<研修主任の声>  
学力向上には、児童理解に基づく学級経営を意識し、学習の基盤づくりと学習の定着に向けた取組が土台になることを強く感じます。